

令和2年度(令和元年度実績)

鳥羽市教育委員会の事務に関する
点検・評価報告書

令和3年2月

鳥羽市教育委員会

目 次

第1章 基本事項

I 鳥羽市が目指す教育	1
II 教育委員会の事務に関する点検・評価	1
1. 趣旨	1
2. 点検・評価の対象	2
3. 点検・評価の方法	2

第2章 点検・評価事項

I 教育委員会の運営状況	3
1. 教育委員会の構成	3
2. 教育委員会の会議	4
3. 活動の周知および情報発信	6
4. 教育委員の自己研鑽	9
5. 教育委員会だより	10
6. 情報公開について	11
7. 総合教育会議について	11
8. 教育委員会の運営に対する外部評価	12
II 「鳥羽市教育振興基本計画」の取り組みと外部評価	14
【施策1】学校教育の充実	14
【施策2】地域全体で取り組む教育の推進	39
【施策3】社会教育・スポーツ振興	44

■ 第 1 章 基本事項

I 鳥羽市が目指す教育

自ら学び心豊かにたくましく生きようとする人間の育成

本市は「真珠のようにきらり輝く鳥羽^{まち}」を将来の都市像に掲げています。

次代を担う本市の子どもたちは、その実現のための大きな力になることは間違いありません。子どもたちが、輝く未来のために自分を磨き、人間性と創造力を豊かにし、社会参画意識と行動力を高めることができる環境を整えていくのは大人の責務です。

本市では、「自ら学び心豊かにたくましく生きようとする人間の育成」を目標とし、園・学校・家庭・地域のさらなる連携のもと、「あふれる感性」「豊かな心」「意欲と活力」を持った子どもを育てることをめざします。

そのために、学校教育を充実させ、地域全体で取り組む教育を推進し、社会教育・スポーツの振興を図っていきます。



II 教育委員会の事務に関する点検・評価

1. 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」において、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、教育に関し学識経験を有する方の知見を活用した点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないとされています。

教育委員会では、法の趣旨にのっとり、効率的かつ効果的な教育行政の推進を図るとともに、教育委員会の責任体制の明確化を図り、市民の方々への説明責任を果たすために、教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価を行い、報告書として作成しました。

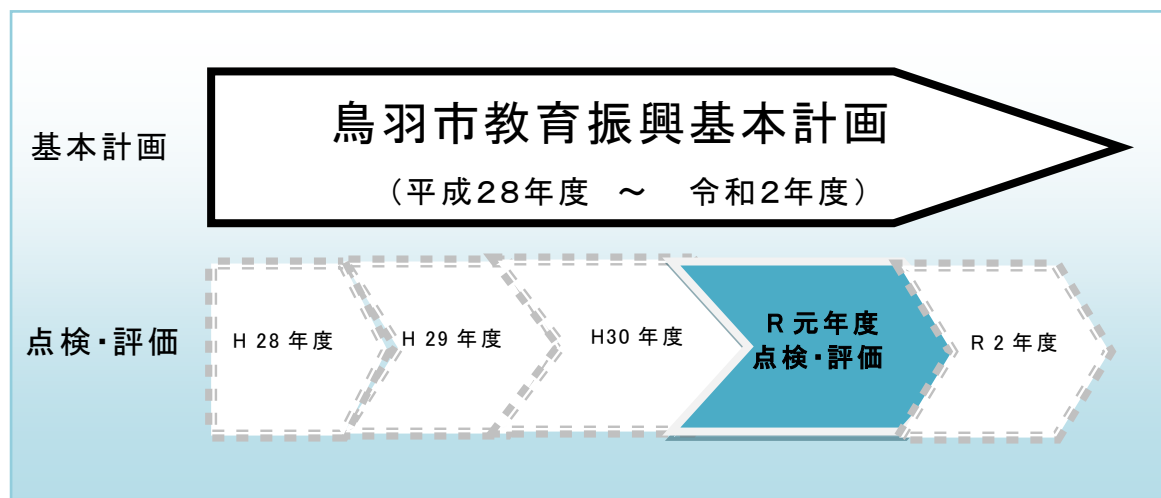
【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2. 点検評価の対象

本報告書では、令和元年度鳥羽市教育委員会の運営状況および「鳥羽市教育振興基本計画（H28～H32）」に基づく、令和元年度の主な取組について、点検・評価の対象としました。



3. 点検・評価の方法

教育委員会の運営状況および「鳥羽市教育振興基本計画」に基づいて行った令和元年度の事務（教育委員会が管理・執行する事務）に関し、成果指標などに基づいて、自己評価を行った後、教育に関する学識経験者から意見聴取を行いました。

点検・評価報告書については、議会への報告と市ホームページへ掲載し、公表します。

【学識経験者（外部委員）名簿】

氏名（敬称略）	役 職 等
市田 敏之	皇學館大学准教授
福井 光生	元小学校長
和田 みゆき	児童保護者

■第2章 点検・評価事項

I 教育委員会の運営状況

1. 教育委員会の構成

平成27年度4月から施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」により、教育委員会を代表する教育委員長と事務局を統括する教育長を一本化し、新たな職として教育長を置くこととなりました。

令和元年度中の教育委員の交代は、岡村忠夫氏が任期満了により退任され、奥村楠治氏が令和元年10月1日付けで就任しました。

【教育委員会名簿】

平成30年12月24日～

	氏 名	任 期	備 考
教育長	小竹 篤	平成29年7月1日 ～令和元年9月30日	
委 員	中村 和久	平成30年12月24日 ～令和4年12月23日	
委 員	亀川 聖子	平成28年10月1日 ～令和2年9月30日	
委 員	江崎 ユミ	平成29年10月1日 ～令和3年9月30日	教育長職務代理者
委 員	岡村 忠夫	平成27年10月1日 ～令和元年9月30日	

令和元年10月1日～

	氏 名	任 期	備 考
教育長	小竹 篤	令和元年10月1日 ～令和4年9月30日	
委 員	江崎 ユミ	平成29年10月1日 ～令和3年9月30日	教育長職務代理者
委 員	亀川 聖子	平成28年10月1日 ～令和2年9月30日	
委 員	奥村 楠治	令和元年10月1日 ～令和5年9月30日	
委 員	中村 和久	平成30年12月24日 ～令和4年12月23日	

【教育委員会制度の概要】

- 教育委員会は、地域の学校教育、社会教育、文化、スポーツ等に関する事務を担当する機関として、全ての都道府県及び市町村等に設置。首長から独立した行政委員会としての位置づけ。
- 教育行政における重要事項や基本方針を決定し、それに基づいて教育長が具体的な事務を執行。

2. 教育委員会の会議

鳥羽市教育委員会会議規則の規定に基づき、原則として毎月月末に定例会を開催しています。

令和元年度は12回（定例会12回・臨時会1回）を開催し、合計50議案を審議、可決・承認しました。

会議日程は、市の告示板に告示しています。

【開催状況】（開催回数：定例会12回・臨時会1回、審議等議案数：50件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
定例会 (議案)	1 (7)	1 (9)	1 (2)	1 (3)	1 (2)	1 (2)	1 (1)	1 (2)	1 (1)	1 (4)	1 (6)	1 (11)	12回 (50件)
臨時会 (議案)					1 (0)								1回 (0件)

【主な内容】

期日	議案等	主な協議件名
4月定例会 (H31.4.26)	議案 (7件)	鳥羽志摩地区教科用図書採択協議会規約の制定について
		鳥羽市小中学校結核対策委員会委員の委嘱について
		鳥羽志摩地区教科用図書採択協議会委員の任命について
		鳥羽市いじめ問題対策連絡協議会委員の任命について
		鳥羽市学校評議員の委嘱について
		鳥羽市心身障害児就学指導委員会委員の解委嘱について
		鳥羽市学校体育施設開放運営委員会委員及び管理指導委員の委嘱について
5月定例会 (R1.5.28)	議案 (9件)	鳥羽市立学校における学校運営協議会の設置及び運営に関する規則の制定について
		学校の管理に関する規則の一部改正について
		鳥羽市立学校運営協議会の設置等の取扱いに関する要綱の制定について
		鳥羽市青少年サポートセンター指導員の委嘱について
		鳥羽市放課後子ども総合プラン運営委員の委嘱について
		鳥羽市文化財調査委員の委嘱について
		鳥羽市社会教育委員及び公民館運営審議会委員の委嘱について
		鳥羽市立中央公民館長及び分館主事の解任命について
6月定例会 (R1.6.24)	議案 (2件)	菅島小学校学校運営協議会委員の委嘱及び任命について
		鳥羽市学校評議員解委嘱について
7月定例会 (R1.7.22)	議案 (3件)	令和2年度使用小学校用教科用図書の採択について

		令和２年度使用中学校用教科用図書の採択について
		指定管理者の指定についての意見の申出について（海の博物館）
８月臨時会 （R1.8.2）	協 議 事 項	鏡浦小学校の統合について
８月定例会 （R1.8.26）	議 案 （２件）	鳥羽市立幼稚園の設置及び管理に関する条例の一部改正についての意見の申出について
		鳥羽市立かもめ幼稚園預かり保育条例の一部改正についての意見の申出について
９月定例会 （R1.9.27）	議 案 （２件）	鳥羽市幼稚園則の一部改正について
		鳥羽市幼稚園給食費補助金交付要綱の廃止について
10月定例会 （R1.10.29）	議 案	鳥羽市立海の博物館運営協議会委員の委嘱について
11月定例会 （R1.11.26）	議 案 （２件）	就学等に関する規則の一部改正について
		令和２年度教職員人事異動基本方針（案）について
12月定例会 （R1.12.20）	議 案	令和２年度土曜日の授業の実施（案）について
１月定例会 （R2.1.29）	議 案 （４件）	鳥羽市運動施設の管理に関する条例の一部を改正する条例についての意見の申出について
		鳥羽市運動施設の管理に関する条例施行規則の一部改正について
		指定管理者の指定についての意見の申出について（大庄屋かどや）
		指定管理者の指定についての意見の申出について（寝屋子交流の館）
２月定例会 （R2.2.26）	議 案 （６件）	令和２年度教職員人事異動（案）について
		就学等に関する規則の一部改正について
		鳥羽市立学校における学校運営協議会設置及び運営に関する規則の一部改正について
		鳥羽市立小中学校事務の共同実施協議会設置要綱の一部改正について
		鳥羽市立学校教職員の自家用自動車による出張の承認等に関する要綱の一部改正について
		鳥羽市立図書館規則の一部改正について
３月定例会 （R2.3.26）	議 案 （11件）	鳥羽市立学校における教育職員の在校等時間の上限等に関する規則の制定について
		鳥羽市立学校における教育職員の在校等時間の上限等に関する方針の策定について
		語学指導等を行う外国青年の勤務条件等に関する規則の廃止について

	鳥羽市高等学校通学費等補助金交付要綱の一部改正について
	鳥羽市学校内科医の委嘱について
	鳥羽市学校眼科医の委嘱について
	鳥羽市学校耳鼻科医の委嘱について
	鳥羽市学校歯科医の委嘱について
	鳥羽市薬剤師の委嘱について
	鳥羽市社会教育指導員の任命について
	令和元年度（平成 30 年度実績）鳥羽市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書について

【議案の種別】

【議決の状況】（付議事項数：50 件）	件 数
① 教育に関する事務の管理及び執行の基本方針	4 件
② 教育委員会規則、規程等の制定・改廃	16 件
③ 学校及びその他教育機関の設置及び廃止	0 件
④ 協議会・審議会委員等の任免・委嘱	21 件
⑤ 教育委員会事務の点検・評価	1 件
⑥ 議会提出議案に関する意見	6 件
⑦ 教科用図書の採択	2 件
⑧ 通学区域の設定・変更	0 件
⑨ 文化財の市指定	0 件
⑩ その他	0 件

3. 活動の周知及び情報発信

ホームページや広報とば、行政放送、とばメール等、様々な手段や方法により情報発信を行いました。

（１）鳥羽市ホームページのトップページにおいて、告知を行いました。

掲載日	所管課	内 容
H31. 4. 2	学校教育課	学びの基本・家庭学習の手引きについて
H31. 4. 17	学校教育課	平成 31 年度鳥羽市外国語指導助手業務委託事業者選定プロポーザルの実施について
R1. 5. 20	生涯学習課	日本遺産に「海女 (Ama)に出逢えるまち鳥羽・志摩～素潜り漁に生きる女性たち」が認定されました。
R1. 6. 4	学校教育課	鳥羽市教育振興基本計画について
R1. 7. 19	学校教育課	離島留学に興味がある親子のための「夏休み答志島見学ツアー」
R1. 7. 19	生涯学習課	最古の鳥羽城絵図を確認しました。
R1. 9. 25	学校教育課	鳥羽が好きふるさと給食
R1. 9. 25	学校教育課	「寝屋子の島留学オープンキャンパス」（答志小学校海の子フェスティバル）

R1. 9. 25	学校教育課	「寝屋子の島留学オープンキャンパス」(答志中学校文化祭)
R1. 10. 1	総務課	幼稚園の入園募集について
R1. 10. 30	学校教育課	平成31年度全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について
R1. 12. 19	学校教育課	離島留学(寝屋子の島留学事業)
R2. 1. 15	総務課	令和元年度高等学校通学費等補助金交付制度について

(2) 「広報とば」による情報発信を行いました。

掲載月	担当課	内 容 ・ 件 数
4 月 1 日 号	生涯学習課	・ 海の博物館の取り組みを紹介します ・ 平成31年度生涯学習講座受講者募集について ・ お知らせ 1件
5 月 1 日 号	総務課	・ 「高校生通学費補助」について
	生涯学習課	・ とばのものしりになろう！とばっこ検定 ・ 「地球塾」塾生募集について ・ なるほど！うみはく「鳥羽の海のものを使っての楽しい体験」 ・ 募 集 2件
6 月 1 日 号	学校教育課	・ お知らせ 1件
	総務課	・ お知らせ 1件
7 月 1 日 号	生涯学習課	・ 海女文化が日本遺産に認定されました！ ・ 図書館が開館30周年を迎えました ・ 海の博物館で海女の魅力、海の楽しさに触れてください ・ お知らせ 4件 ・ 募 集 1件
8 月 1 日 号	生涯学習課	・ 日本遺産「海女（Ama）に出逢えるまち」鳥羽・志摩～素潜り漁に生きる女性たち」の構成文化財を紹介します！ ・ お知らせ 1件
9 月 1 日 号	総務課	・ 幼児教育・保育無償化 ・ お知らせ 2件 ・ 募 集 2件
	生涯学習課	・ 第44回鳥羽市民文化祭 ・ なるほど！うみはく「海の博物館で海女に出逢う」 ・ お知らせ 1件 ・ 募集 1件

	学校教育課	・お知らせ 2件
10月1日号	生涯学習課	・第61回鳥羽市民体育大会参加者募集 ・鳥羽市民大運動会 ・三重大学海女研究センター「海女学講座Ⅱ」 ・生涯学習講座受講者募集 ・第44回鳥羽市民文化祭音楽芸能発表会プログラム ・お知らせ 1件 ・募 集 1件
	総務課	・令和2年度幼稚園児・預かり保育園児募集 ・お知らせ 2件
11月1日号	生涯学習課	・なるほど！うみはく「海の博物館で鳥羽の祭に出逢う」 ・お知らせ 3件
	学校教育課	・菅島小学校「島っ子ガイドフェスティバル」 ・お知らせ 2件
12月1日号	生涯学習課	・市立海の博物館 この冬は地元の歴史に触れる機会がいっぱい ・お知らせ 2件
	学校教育課	・鳥羽市学校給食中央共同調理場の調理業務を民間に委託します
1月1日号	生涯学習課	・第23回「海の香りのする詩」の受賞作品 ・東京2020オリンピック聖火リレー鳥羽市のルートが決まりました ・鳥羽市スポーツ優秀選手・優秀団体表彰者 ・なるほど！うみはく「海の博物館で鳥羽ならではの冬体験をする」 ・お知らせ 2件
	学校教育課	・お知らせ 2件 ・募 集 1件
2月1日号	生涯学習課	・第13回美し国三重市町対抗駅伝 ・第20回鳥羽市子どもフェスティバルin安楽島 ・お知らせ 1件
	総務課	・お知らせ 1件
3月1日号	生涯学習課	・なるほど！うみはく「海女展示のリニューアル」 ・お知らせ 2件
	学校教育課	・お知らせ 1件
連 載	生涯学習課	・図書館だより ・人権文化の花を咲かせよう

(3) 「行政放送」による情報発信を行いました。

放送日		所管課	タ イ ト ル
4月16日 ～4月30日	特集とば	生涯学習課	「うみはく」春の企画のお知らせ
5月1日 ～5月15日	お知らせ	総務課	高校生通学費補助制度のご案内について
7月16日 ～7月31日	特集とば	生涯学習課	「海の博物館」夏の企画のお知らせ
10月1日 ～10月15日	特集とば	総務課	幼稚園入園募集、預かり保育の園児募集
10月1日 ～10月15日	お知らせ	生涯学習課	第44回市民文化祭が開催されます①
10月16日 ～10月31日	お知らせ	生涯学習課	第44回市民文化祭が開催されます②
11月1日 ～11月15日	特集とば	学校教育課	鳥羽市の英語教育&郷土学習
12月16日 ～12月31日	特集とば	生涯学習課	「うみはく」冬の企画のお知らせ
1月16日 ～1月31日	お知らせ	総務課	高校生通学費等補助制度のご案内について
2月1日 ～2月15日	お知らせ	生涯学習課	第13回美し国三重市町対抗駅伝大会へご声援を
2月16日 ～2月29日	お知らせ	生涯学習課	第20回鳥羽市子どもフェスティバルが開催されます

(4) 「とばメール」やフェイスブックなどを活用し、各種事業のお知らせ、啓発活動を行いました。

4. 教育委員の自己研鑽

研修会への参加や時報「市町村教委」を定期購読し、教育行政の理解を深めるとともに、積極的に各学校等の現場へ出向き、子どもたちとのふれあいや学校の現状把握を行い、委員活動の充実に努めました。

また、関係機関との連携した活動や定期的に委員で勉強会を開催し、委員間での意見交換や情報共有を通じて、自己研鑽に努めました。

開催日	内 容	場 所
H31.4.10	三重県市町教育委員会連絡協議会	松阪嬉野生涯学習センター
R1.7.1	鳥羽市いじめ問題対策連絡協議会	保健福祉センターひだまり

R1.8.2	鳥羽市総合教育会議	鳥羽市民文化会館
R1.8.30	三重県市町教育委員会教育委員等研修会	嬉野生涯学習センター
R1.10.24	三重の教育談義	松阪クラギ文化ホール
R1.11.15	神島小中学校研究発表会	神島小中学校
R1.11.28	市長・教育長・教育委員と語る会	鳥羽商工会議所かもめホール
R2.2.5	鳥羽市いじめ問題対策連絡協議会	保健福祉センターひだまり
年間	・ 学校訪問等 31件 ・ 勉強会 9件	各市内学校等 教委スタッフルーム等

5. 教育委員会だより

教育委員会の機関紙である「教育委員会だより」を年に3回発行し、教育委員会に関する活動の広報と情報発信を行いました。

【発行状況】発行回数：3回（4月・9月・1月）

発刊月	内 容
9月 (第17号)	・ 「やったーできたよ！！」夏休み体験講座 ・ 鳥羽市イングリッシュキャンプin安楽島小学校の紹介 ・ 鳥羽高等学校校長先生の紹介 ・ 文化財 丸山庫蔵寺の紹介 ・ 「寝屋子の島留学生」の紹介 ・ 地域の宝をみんなで輝かせる～コミュニティ・スクールの紹介～
1月 (第18号)	・ 鳥羽市青少年育成市民会議主催「みんなで風作り教室」 ・ とばっこ検定 海女ウォークラリーに挑戦 ・ 令和元年10月就任、教育委員の紹介 ・ 楽しいよ 鳥羽スキー・スノボ教室の紹介 ・ 神島っ子ガイドの紹介 ・ より良い教育環境を提供するために～学校統合計画の進捗と課題～
4月 (第19号)	・ 第5回石神さんマラソン大会 ・ 令和2年度教育予算の概要について ・ これからの海洋教育について ・ 海の博物館の海女展示を一部リニューアルしました！ ・ 伝統となっている「ふるさと学習」について ・ 「石神さんマラソン」のボランティア活動で輝く小中学生の紹介

6. 情報公開について

教育委員会が管理・執行する事務に係る情報公開請求の実績は、下記のとおりでした。

- ・ 行政情報の公開状況

件数	全部公開	部分公開	不受理
21	21	0	—

- ・ 個人情報の公開状況

公開請求無し。

7. 総合教育会議について

総合教育会議は、市長と教育委員会の対等な執行機関同士が協議・調整を行う場として、平成27度から開催しています。

令和元年度は8月2日に開催され、市長と教育委員が「鏡浦小学校の安楽島小学校への統合について」協議し、令和3年4月を目標に総合を進めることを確認しました。また、児童生徒等の状況および教育現場の課題について意見交換を行いました。

8. 教育委員会の運営に対する外部評価

教育委員会の運営状況等に関係する外部委員からの意見等は、下記のとおりでした。

【委員からの意見等】

＜委員 A＞

(1) 教育委員会の会議

■教育委員会の定例会や臨時会では、議事録をホームページで公表し、忌憚のない意見を述べられ真摯な審議が行われているのが窺えます。ただ、議事録に傍聴者数が示されていないので、透明性に欠けるところが見受けられます。しかしながら、会議環境のイメージから、傍聴にはハードルが高い面があると思われます。傍聴者がいない場合は、日時や会議会場等、場合によっては離島で開催することも検討され、ホームページ等に定例会等の開催のお知らせを掲載するなど工夫し、傍聴しやすい環境づくりに努めていただきたいと思います。

(2) 活動の周知及び情報発信

■ホームページや広報とば、行政ニュース、とばメール等、様々なツールで情報発信されています。ホームページは更新頻度が向上し、情報が整理されていて見やすく分かりやすくなっています。教育行政を取り巻く環境は、多様化、複雑化しており、教育課題の解決に向けて、地域と連携した取り組みが求められている中で、市民に広く周知する必要性が高くなってきていることから、引き続き、情報発信の充実を図り、透明性の確保に努めていただきたいと思います。

(3) 教育委員の自己研鑽

■教育委員会の学校訪問が年間31件にのぼり、単純計算で1校あたり年間2回以上の訪問となっています。それぞれの学校の特色ある教育をさらに推進するためにも、教職員との対話を通して、適切な支援に繋げて頂きたいと思います。また、各校とどのような意見交換が交わされたのかを明記することで、具体的な教育施策に繋がられるのではないかと考えます。これからも教育現場の現状把握に努め、ご尽力いただきますようお願いいたします。

(4)教育委員会だより

■教育委員会だよりについて、全世帯配布とホームページの掲載により、市民に広く発信されています。各学校のそれぞれの地域に根差した特色ある教育の取り組みや、教育行政の推進に関わる各種施策の取り組み等、積極的な取り組みが窺えます。また、チーム鳥羽として、様々な立場の方々の協力を得ながら教育行政を進められていることが窺えます。今後も生き生きと活動する子どもたちの姿や、鳥羽市の教育の方向性を盛り込んだ教育委員会だよりを期待しています。

<委員 B>

(1)教育委員会の会議

■教育委員会の運営については、概ね適切に実施されている。

<委員 C>

(2)活動の周知及び情報発信

■様々な媒体を通じて、活動の周知や情報発信ができています。

(3)教育委員の自己研鑽

■自己研鑽としての、学校訪問を引き続き継続してもらいたい。百聞は一見に如かずの諺どおり、学校現場のすばらしさや場合によってはその困り感を肌で感じてもらうことで、より具体的な今後の委員としての活動に繋がっていくであろう。また、活動のよりいっそうの「見える化」は今後の課題であります。

(4)教育委員会だより

■その年々、月々の子どもたち、学校や地域のタイムリーな話題を提供できており、充実しています。認められるということは、子どもたちの励みにもなり、自尊感情も高められ、その発信姿勢を今後も維持していただきたい。

Ⅱ 「鳥羽市教育振興基本計画」の取り組み

自ら学び心豊かにたくましく生きようとする人間の育成

【計画の体系】

【施策１】学校教育の充実

- (１) 自ら学び、考える力を持つ子どもの育成
- (２) 豊かな心を持つ子どもの育成
- (３) 健やかな心身を持つ子どもの育成
- (４) 安全・安心な学校づくりの推進
- (５) これからの学校

【施策２】地域全体で取り組む教育の推進

- (１) 学校と家庭・地域の連携強化
- (２) 青少年育成活動の充実

【施策３】社会教育・スポーツの振興

- (１) 誰もが学べる生涯学習の推進
- (２) 歴史・文化遺産を生かした郷土学習の推進
- (３) 生涯スポーツを通じた活力ある生活の推進

【施策１】学校教育の充実

（１）自ら学び、考える力を持つ子どもの育成

- 授業及び幼児教育の工夫・改善、言語活動の充実、家庭学習の推進
- 子どもの実態把握に基づく個に応じた指導の推進と充実
- 自ら課題を見つけ出し、社会の変化に主体的に対応できる子どもの育成
- 自らの将来や生き方を考えさせ、子どもの進路・学力を保障する教育の推進
- 教職員の資質向上と学力と創造力を伸ばす教育の推進

【主な取組と成果】

へき地教育振興事業

へき地複式教育に関わる団体への補助などを行い、団体を通してへき地複式校における教育条件の整備等の支援を行いました。

教育振興管理事業

小中学校の教師用教科書及び指導書が改訂され、その調達を行いました。

○学校別児童・生徒数（令和元年５月１日現在）

<小学校>

区分 学校名	児童数（人）			学級数		
	男	女	計	普通	特別支援	計
鳥羽	87	89	176(16)	7	4	11
答志	31	20	51(2)	6	1	7
神島	9	6	15(2)	3	1	4
菅島	9	7	16(1)	2	1	3
加茂	65	53	118(4)	6	1	7
安楽島	130	99	229(4)	10	1	11
鏡浦	13	8	21	3	0	3
弘道	43	32	75(1)	6	1	7
計	387	314	701(30)	43	10	53

（注）（ ）内の数は、特別支援学級児童数（内数）、学級数は実学級数

<中学校>

区分 学校名	生徒数（人）			学級数		
	男	女	計	普通	特別支援	計
鳥羽東	134	111	245(7)	9	2	11
答志	21	24	45	3	0	3
神島	6	5	11(1)	3	1	4
加茂	37	43	80(1)	3	1	4
長岡	24	19	43(1)	3	1	4
計	222	202	424(10)	21	5	26

（注）（ ）内の数は、特別支援学級児童数（内数）、学級数は実学級数

<幼稚園>

区分 幼稚園名	園児数（人）			学級数
	男	女	計	
かもめ	23	22	45	3

○学校別教職員数（令和元年5月1日現在）

<小学校>

（単位：人）

区分 学校名	校長	教頭	教諭	養護 教諭	栄養 教諭	事務 職員	計
鳥羽	1	1	15	1	0	1	19
答志	1	1	7	1	1	1	12
神島	0	1	4	1	0	1	7
菅島	1	1	3	1	1	1	8
加茂	1	1	8	1	0	1	12
安楽島	1	1	14	1	0	1	18
鏡浦	1	1	3	1	0	1	7
弘道	1	1	8	1	0	1	12
計	7	8	62	8	2	8	95

<中学校>

（単位：人）

区分 学校名	校長	教頭	教諭	養護 教諭	栄養 教諭	事務 職員	計
鳥羽東	1	1	20	1	1	1	25
答志	1	1	7	1	0	1	11
神島	1	1	6	0	0	0	8
加茂	1	1	7	1	0	1	11
長岡	1	1	7	1	0	1	11
計	5	5	47	4	1	4	66

＜幼稚園＞ (単位：人)

区分 幼稚園名	園長	教諭	計
かもめ	1	4	5

学力向上推進事業

児童生徒の学力向上を図るため、全国学力・学習状況調査などの結果を基に学力向上委員会で指導方法の改善等を協議し、授業の改善に努めました。

また、新学習指導要領改訂のポイントとそれに伴って小中学校それぞれで課題となることを学び、市内各校に広げていけるよう努めました。

小学校教育振興事業・中学校教育振興事業

各小・中学校からの要望による各種教材備品や学校図書を整備し、教育環境の充実に努めました。また、小学5年生を対象とした海の博物館での体験学習や小学4年生を対象とした警察署ややまだエコセンター等の公共施設の見学を通して学習内容をより一層深めることができました。

理科教育振興事業

小学校における理科・算数教育の充実や、中学校における理科・数学教育の充実を図るため、各学校の実態に応じた理科・算数の教材備品を整備しました。

教職員研修事業

鳥羽志摩教育研究会や市教育研究推進校への補助を通して教職員の資質の向上を図りました。

また、各校からの授業研究に係る指導主事への派遣要請を受け要請訪問を実施し、授業に対しての指導及び助言を行いました。

○令和元年度鳥羽市教育研究推進校： 神島小学校・神島中学校

○研究主題： 『小中9カ年の一環した教育活動の展開を目指して』

～地域色豊かに、主体的で表現力豊かに活動する子どもの育成～

○令和元年度指導主所要請訪問回数： 36回（小学校8校延べ数）

- 令和元年度鳥羽志摩人権教育実践交流会研究指定校： 加茂小学校・加茂中学校
- 研究主題： 『互いの良さを認め合い、支え合える児童・生徒の育成』
- ～自分の思いを伝え合い、仲間とつながる活動を通して～
- 令和元年度指導主事要請訪問回数： 30回（中学校5校延べ数）

【成果指標と目標値】

成果指標	平成26年度	令和元年度	令和2年度
各教科等の指導のねらいを明確にした上で言語活動を適切に位置づけましたか。 「よくおこなった」の回答率	小学校 0 % 中学校 0 %	小学校 37.5 % 中学校 40.0 %	小学校 100 % 中学校 100 %
授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたか。「よくおこなった」の回答率※5	小学校 12.5 % 中学校 20.0 %	小学校 81.3 % 中学校 100 %	小学校 100 % 中学校 100 %
授業の内容はよく分かりますか。 「よくあてはまる」の回答率 ※H26年度に関しては、全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙による抽出	小学校 38.1 % 中学校 33.6 %	小学校 36.7 % 中学校 34.3 %	小学校 60 % 中学校 60 %
学習ボランティア等の配置校数	小学校 3校 中学校 0校	小学校 0校 中学校 1校	小学校 7校 中学校 5校

【自己評価と今後の取組】

言語活動については、全国学力・学習状況調査（学校質問紙）の質問番号 19（平成31年度の質問は「言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか。」）の結果から、「よくしている」までは到達できていません。「している」と肯定的に回答している小・中学校は100%であるので、活動の充実を目指すこととします。

めあて・ねらいについては、みえ県民力ビジョン調査の鳥羽市の結果では「めあて」について「よく行った」は小学校は81.3%、中学校は100%、「振り返る活動」については小学校は75%、中学校は100%となっています。中学校は大きく改善したが、小学校にまだ課題があります。引き続き指導・助言を行い、授業の基本の流れの中に取り入れていきたいと考えています。

「授業内容がよく分かりますか」については、全国学力・学習状況調査（児童生徒質問紙）から引用しています。「よくあてはまる」という回答は、小・中学校とも前年度とあまり変わらず、40%前後を推移しているが、「あてはまる」も含めた肯定的な回答は小学校で79.6%、中学校で75.3%となっています。80%弱の児童生徒に

とって、わかりやすい授業が展開されているといえます。今後も、より分かりやすい授業を充実させていくために、学力向上委員会等をとおして、授業改善に努めます。

学習ボランティアについては、「三重県教育委員会事務局の大学生等の教育アシスタント活用事業」を活用している学校数となっています。今後も、鳥羽市独自の学習ボランティアの配置をめざしていきます。

【委員からの意見等】

〈委員 A〉

■全国学力・学習状況調査の結果を基に、課題分析と今後の取り組みについて、保護者への周知を図り、ホームページにて発信されていることは評価できます。加えて、当報告書にも質問紙調査の結果だけでなく、学力調査の結果も示された方が、取り組みの成果が分かりやすくなるのではないかと考えます。学力向上は、学校教育の肝であり、学校教育の充実はもとより、家庭との連携も重要になってくると考えられます。「学力向上委員会」がどのような委員構成になっているのか、もし学校関係者だけで構成されているのであれば、家庭教育の観点から、保護者の意見も取り入れるべく委員に加えることを検討してください。

■鳥羽志摩教育研究会や市教育研究推進校による研究発表会を通じて、主体的な学びの充実が図られています。また、指導主事による学校訪問を充実させ、授業に対して指導等を丁寧に行っていることが窺えますが、今後の新学習指導要領の完全実施や、IT 教育の推進に向けて、令和元年度要請訪問回数から見て、増員の検討が必要ではないかと思われまます。

■成果指標の「授業の内容はよく分かりますか」の回答について、「よくあてはまる」が小中学校共に40%を満たしていないが、「あてはまる」も含めた肯定的な回答は80%弱であることから、高水準であり評価できます。しかしながら、「分かりやすい授業が展開されているといえる」という自己評価には少し疑問を感じます。残りの20%強の児童生徒が「あてはまらない」等の回答をしているのが現状です。その20%強の回答に目を向け、児童生徒の一人一人へ支援ができていくかどうかの確認が必要であると考えます。誰一人と分からないまま学年が上がっていくことがないよう、更なる取り組みの充実と、児童生徒への支援をお願いします。

〈委員 B〉

■各事業とも概ね適切に実施されているものの、成果としては目標達成に至っていないものがあります。教育委員会から学校現場に対して、さらなる支援を行うことが必要と考えられるが、その際は、学校や家庭、地域からの要請にもとづく適切かつ効果的な支援を講じることを求めます。

〈委員 C〉

■へき地教育振興事業については、ぜひ継続していただきたい。

■教職員研修事業では、各小学校、中学校の要請にこたえて、2人の指導主事で66回の訪問回数となっている。多岐にわたる指導主事の職務として、頭の下がる思いです。現在の職務量では2人の指導主事への負担は大きく、職務の遂行は無理のないようにできているのかとの心配があります。今後、虐待の案件も急増しているので、市の健康福祉課子育て支援室とのさらなる連携を念頭に、不登校や特別支援を専門とする指導主事の増員を強く要望していただきたい。

■全国学力・学習状況調査等の結果公表について、鳥羽市の場合は小規模学級・複式学級も多く、調査対象者の数に差が大きく、このことを考慮しての現在の「鳥羽市」としての結果公表は現実的な形式であります。今後も子どもの目線を意識した「分かりやすい授業」の推進を期待します。

(2) 豊かな心を持つ子どもの育成

- 「人権感覚あふれる学校づくり」の推進と人権教育・学習の充実
- 系統性を持った人権教育の取組
- 地域の環境や人材を生かした体験活動の推進
- 郷土の良さを紹介できる子どもの育成
- 道德教育の教育活動全体での推進
- 規範意識を高める日常の取組の推進
- 日常から文化・芸術に親しむ機会の充実

【主な取組と成果】

児童生徒書き初め大会事業

市内小中学校の児童・生徒の普段の学習の成果を発表するための機会を提供するとともに伝統文化である「書道」の伝承及び底辺の拡大を図るため、書き初め作品展を開催しました。

○作品出展数： 小学校：486名（3年～6年）、中学校：424名（1年～3年）

○作品展示場所・期間： 市立図書館、ショッピングプラザハロー、
鳥羽マリンターミナル、鳥羽マルシェ、
希望校巡回展示（R2.1.17～2.19）

学校人権教育事業

市人権教育推進委員会と市人権フォーラム実行委員会の活動を中心に各校における人権教育の推進に取り組みました。

また、各学校での取組を通して子どもたちが感じた思いや意見を出し合うことで、人権問題に対する認識を深め、感性を高め実践力の育成を図るため人権フォーラムを開催しました。

参加した子どもたちは、普段交流のない他校の子どもたちの発表を聞いたり意見交換などを行うことでさらに人権への考えが深められました。

○人権フォーラム参加児童生徒数： 小学生 41名（8校）
中学生 39名（5校）

子ども支援ネットワーク・アクション事業

子どもたちの自尊感情や学習意欲を高めるとともに、いじめや差別を許さない集団作りを進めるために、答志中学校区で取り組みました。防火パレードやわかめ養殖といった体験活動を数多く行いました。また、学習発表会などで子どもたちが活動を通して学んだことを自ら発信する機会も持ちました。

活力ある学校づくり推進事業

特色ある学校事業を実践させることにより児童の活力を引き出す学校づくりを推進しました。各学校において、校外学習や地域に開かれた学校づくりの取り組みを行い、体験を通して学ぶ児童・生徒活動を推進しました。

○令和元年度各校の主な活動内容

＜小学校＞

- ・鳥羽小学校校内研修充実事業、地域文化ふれあい事業、芸術鑑賞会
- ・答志小学校 食の体験フェスタ週間、海洋教育関連体験学習など
- ・神島小学校島っ子太鼓活動事業、神島っ子ガイド活動事業など
- ・菅島小学校「島っ子ガイド」事業、「地域とともにある学校づくり」など
- ・加茂小学校演劇鑑賞事業、米づくり体験、花壇整備など
- ・安楽島小学校アサリの養殖体験、芸術（演劇）鑑賞会、花壇整備など
- ・鏡浦小学校学校間交流、伝承文化体験、学力向上（演劇講座）など
- ・弘道小学校文化・芸術体験事業、地域人材によるクラブ活動事業など

＜中学校＞

- ・鳥羽東中学校香しき文化構築事業、花開く人権感覚醸成事業など
- ・答志中学校ワカメ養殖体験学習、藻場再生体験学習、文化祭など
- ・神島中学校人権学習推進事業、学校間交流事業、芸術工芸体験事業
- ・加茂中学校キャリア教育推進事業、安全教育推進事業、文化活動奨励事業など
- ・長岡中学校特設クラブ育成事業、開かれた学校推進事業、職業体験学習事業

友好都市提携事業

IT 機器（スカイプ）を活用し、島っ子ガイドを活用した神島の紹介や、冬の三田市母子（もうし）小学校周辺の雪景色の模様などで交流しました。また、母子小学校4、5、

6年生の児童6名が神島小学校を訪れ、海の体験や釣り体験など交流を行いました。

この交流事業において、子どもたちが自分の住むまちの特性や、素晴らしさを学ぶことにより郷土愛の育成を図ることができました。また、小規模校である両校の教職員が、学校視察や交流を行い今後の指導方法等や学びについて話し合いを行うことができました。

○交流実施校

児童交流： 母子小学校→神島小学校を訪問

教員交流： 神島小学校→母子小学校を訪問

人権教育推進事業

豊かな人権文化のまちづくりをめざし、市内保育所、幼稚園、小・中学校等を会場として、子どもたちや保護者、地域住民が「命の大切さ」、「絵本から伝わる命・愛・人権・平和」、「子どもたちを取り巻く人権課題」、「障がい者差別」、「LGBT」等について考え啓発することをおして、一人ひとりの人権が尊重され、差別のない明るい社会の実現を図るための事業を行いました。また、社会教育指導員を配置し、広報等を通じて人権に関する啓発活動を行いました。

講演会・学習会	回数	参加者数（延べ人数）
	10回	1,392

【成果指標と目標値】

成果指標	平成26年度	令和元年度	令和2年度
各小中学校における道德教育の年間指導計画、全体計画の別葉の作成	7%	100%	100%

【自己評価と今後の取組】

道德教育推進担当者会議において年間指導計画及び全体計画の別葉を作成、見直しをした結果、100%となりました。今後は各校の研修会のさらなる充実を図ることで、道德教育を推進していきます。

【委員からの意見等】

〈委員 A〉

■「子ども支援ネットワーク・アクション事業」では、自尊感情を高めるうえで、貴重な体験活動であると考えます。防火パレードやわかめの養殖といった体験活動は、保護者や地域住民の協力が不可欠な取り組みであり、地域に根差した教育であると考えます。私自身、このような体験活動は、30年たった今も心に残っています。このような活動が今日まで受け継がれてきていることは、地域の大きな財産であると考えます。教職員はいずれ転勤していきますが、その時々为学校と地域が手を取り合って、郷土に愛着と誇りを持てるよう、努力を積み重ねてこられたことに敬意を表します。これからも、地域住民の理解を得ながら取り組んでいただきたいと思います。

■「活力ある学校づくり推進事業」における各校の活動内容は、鳥羽市の地域性を生かした、「鳥羽ならではの」と言ってよいものばかりであり、評価できます。将来 学校再編によって廃校になる学校がありますが、長い間続けてきた活動は、地域とのつながりを考慮し、残していけるよう努めていただきたいと思います。そして、各地域の特色を生かした多様な活動を通じ、自分の故郷についての知識を深め、誇りをもって伝えられるようになってほしいと思います。

〈委員 B〉

■各小中学校における道徳教育の年間指導計画、全体計画の別様の作成が100%に達していることは高く評価することができます。今後は、指導計画の実施結果を検証することで、成果と課題を明らかにし、市内学校全体で成果を共有するとともに、必要に応じて改善を図ることも求められます。

〈委員 C〉

■学校人権教育事業について 小中の人権フォーラムの市内各小中学校からの積極的な参加者による直接交流は、地理的になかなかできる機会が少ないことと、「人権」という価値観の共有ができる、この企画自体が有意義のものであると認識しています。学校規模により手を挙げての交流という点で、積極性のある学校、控えめな学校いろいろあり、刺激を受けての活性化の点で評価すべきものがあります。ただ、人権への考えが「深められた」という域までの事業になっているのか、うわべの感想交流で終わってはいないのか、そこをどのよう

に評価していくのか検証を期待したい。

■活力ある学校づくり推進事業について 内容がどこの学校にでもあるものではない各学校のカラーがでて、地域性、立地性等の特色がより前面に出てきて、年々充実したものとなってきています。今後は、一度形づけられたもの企画について良いもの、効果的なものの「ビルド」「継続」と、そうでないものの「スクラップ」「変化」のため、しっかりとPDCAサイクルをまわしていく必要があると感じています。また、教育委員会として、各学校経営についての現状評価し次年度へ向けてのヒアリングをし、さらなる高みへの改善を促していただきたい。

■道徳教育の年間指導計画、全体計画の別葉の作成が平成30年度に引き続き100%となっています。その点については、平成26年の7パーセントから飛躍の数値であり、担当者関係者の推進活動の成果であります。今後は、指導計画を実施した上での成果や課題について検証していただきたい。

(3) 健やかな心身を持つ子どもの育成

- 基本的な生活習慣の確立
- 郷土の文化や食材を生かした食育の推進
- 学校給食の工夫
- 命の教育・性に関する教育の教育活動全体の中での推進
- 幼少期におけるさまざまな運動経験の機会の充実
- 運動を通じた学校間交流
- 関係機関と連携した特別支援教育の充実

【主な取組と成果】

心身障がい児就学指導事業

心身障がい児就学指導委員会（医師、教員、保育士など10名で構成）を年間9回開催し、新年度に小・中学校に入学予定の特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の保護者に対して、適切な就学指導を行いました。

教育支援センター事業

様々な理由により不登校など学校生活に不適應な状況を示す児童・生徒の実態に即した指導や支援を行い、児童・生徒の自立支援を行うため教育支援センターHARPに専任指導員1名を配置し通級している児童・生徒へ生活指導や学習支援などを行いました。

また、学校への定期的な訪問を行い、集団不適應を示したり、不登校傾向にある児童・生徒に対して支援を行いました。

特別支援教育支援員事業

市内小中学校に在籍する様々な障がいのある児童・生徒や特別な支援を必要とする児童・生徒を適切に支援するために、特別支援教育支援員21名を学校に配置し、学校における日常活動の介助や、学習活動等のサポートを行うことにより、児童・生徒の自立に向けて支援を行いました。

児童生徒支援事業

子どもたちが心にゆとりをもって学校生活を送るため、気軽に悩みなどを相談できるよう、心の教室相談員3名を学校とHARPに配置しました。授業や休み時間などいろいろな状況で子どもの様子を観察し、積極的に子どもとの会話を行うことにより、人間関係を構築し、相談にのったり話し相手をしたりして、子どもの心の安定に努めました。又、相談内容については担任に報告し今後の指導の方向性を統一していくようにしました。

○心の教室相談員配置校： 安楽島小（1名）、鳥羽東中（1名）、HARP（1名）

特別支援教育体制整備事業

発達障がいを含むすべての障がいのある児童・生徒の特別支援教育を総合的に推進するため、それらに関する専門的知識や経験を有する巡回相談員を派遣し、当該校の教員などに支援の必要な児童・生徒に対する指導内容や指導方法に関する助言を行いました。

また、途切れのない支援体制の構築を目指した保育所・幼稚園と小学校、小学校と中学校との引き継ぎにおいて、児童・生徒に対する個別の教育支援計画や指導計画の作成に向けた助言を行いました。

○令和元年度巡回相談回数（支援を要する児童・生徒数）

小学校 1回

中学校 4回

特別支援教育就学対策事業

心身に障がいのある児童・生徒の適切な就学を図るため、関係機関との連携及び特別支援学級、通級指導教室設置校の機能の充実を図りました。

特別支援学級に在籍する児童・生徒の保護者からの申請により、世帯の所得に応じて就学に必要な経費の扶助を行い保護者の経済的な負担の軽減を図りました。

また、特別支援学級、通級指導教室における教育活動で必要となる備品の購入を行い、教育環境の整備を行いました。

小中学校（園）保健振興事業

学校保健安全法に基づき園児、児童生徒及び教職員の健康保持と増進を図るため、学校医・学校歯科医及び薬剤師等各機関の協力の下、健康診断・各種検査を行いました。

また、幼稚園、小中学校の管理下における災害に対し、日本スポーツ振興センターの災害共済給付制度に加入し、園児、児童・生徒の災害における医療費等の給付を行いました。

○令和元年度 災害共済給付状況

学校種別	給付件数（件）	給付額（千円）
小学校	45	285
中学校	212	1,271
幼稚園	0	0
合計	257	1,556

学校給食運営事業

学校給食法に基づき、児童生徒の心身の健全な発達を目的とし栄養バランスのとれた学校給食を提供しました。また、学校給食を通して食生活全般を通した食育の推進を図りました。

経済的に困窮し就学困難な児童生徒の保護者に対して学校給食費の援助を行いました。

学校給食衛生管理基準に沿った学校給食を実施するため、給食調理場の設備、備品の整備を行いました。

年2回（10月・1月）、地元でとれる新鮮な旬の食材の給食のメニューを取り入れ、「自然豊かな鳥羽」の良さを食を通して、児童・生徒が再確認とし、鳥羽を愛する心（郷土愛）を育むために「鳥羽が好きふるさと給食」を実施しました。（市内小中学校、幼稚園、同一メニュー）

令和2年度4月から中央共同調理場調理業務民間委託に向け指名型プロポーザル方式による入札を実施し、令和4年度末までの契約を締結しました。

○中央共同調理場調理業務民間委託

履行期間： 令和元年11月28日から令和5年3月31日

業務委託料： 134,310,000 円 各会計年度支払限度額： 44,770,000 円

【成果指標と目標値】

成果指標	平成26年度	令和元年度	令和2年度
コーディネーショントレーニングの体育科での実施	4校	13校	12校
学校給食における地場産物（県内産）活用割合	36%	42%	45%

【自己評価と今後の取組】

コーディネーショントレーニングの体育科での実施については、答志小学校における指導者を対象にした授業形式での研修会を開催しました。このことで、トレーニングの良さを広げることができました。すべての学校の体育科においてコーディネーショントレーニングを実施することができましたので、来年度については、さらなる内容の充実を図っていきます。

学校給食における地場産物活用割合については、平成26年度から「とばの日」と合わせて鳥羽産の食材を使った特別献立を実施するとともに、平成30年度から「鳥羽が好きふるさと給食」を実施したことで地元食材の活用を増加することができました。また、「鳥羽が好きふるさと給食」を年に2回実施し、食育の授業に地域の生産者を招き、地元の食材について給食をとおして学習をすることができました。学習内容については、給食だより等で保護者の方にも伝えることができました。

特別な支援を必要とする子どもたちの自立と社会参画に必要となる力の育成に向け、一人一人の状況に応じた学びの支援を行いました。また、教育支援センターHARPでは、教育相談などを通して、不適応・不登校傾向にある子どもの一人一人の悩みに寄り添い支援することができました。

【委員からの意見等】

〈委員 A〉

■特別支援教育の視点からの各事業の充実が図られ、評価できます。一人一人が安心安全に、学校生活を送ることが、健やかな心身を持つ子どもの育成へと繋がっていくと考えます。また、一人一人の個に応じた支援に取り組まれていることが窺えます。今後も関係機関との連携を図り、事業推進に努めていただきたいと思います。

■コーディネーショントレーニングを長年継続的に実施しており、【成果指標】にも実施校数として挙げられています。理論に基づくトレーニングであり、各地で実証もされているとは思いますが、鳥羽市の児童生徒の体力向上に繋がっているのか評価・検証をお願いします。

■新鮮で旬の食材をおいしく食べられる、地元食材を使った年2回の「鳥羽が好きふさと給食」では、地域への愛着と、地元生産者の思いや食への関心を高め、食育の推進に繋がっています。知っていても、家庭ではほとんど口にしない食材もあるので、地域に伝わる食文化について、理解を深める大切な機会になっていると感じています。一方で、県内産の地場産物を42%活用していることも大いに評価できます。ただ食べるのではなく、栄養や食習慣など幅場広い視点からの食育や、さらなる地産地消への取り組みや地域学習との連携を図るなどの工夫も期待しています。

■給食だよりや給食試食会等で、保護者への啓発も行われ、評価できます。また、中学校のテスト期間中も実施されるようになり、保護者としてはありがたいです。

調理業務が民間委託となり、業務の効率化が図られましたが、引き続き、献立の作成や食材料の選定、発注、衛生管理等は栄養教諭が行われ、より安全な給食を提供できるよう努めていただきますようお願いします。

〈委員 B〉

■特別支援教育に関する事業及び子どもの心の支援を行う事業では、いずれも複数の事業が実施されており、体制の整備が図られています。今後は、事業間の連携を検証するなど、より適切な支援へと発展させることを期待します。

〈委員 C〉

■様々なニーズに対応できるような体制が作られています。しかしながら、「虐待」案件は令和元年度全国で19万件を超える増加となっており、健やかな心身を持つ子どもの育成のため、虐待早期発見、防止について観点からも、市の健康福祉課子育て支援室との関係性、連携をさらなる密なものにしていく必要があると思われます。そのためにも教育支援センター HARP の専任指導員の増員を強く要望していただきたい。

■「鳥羽が好きふるさと給食」では、地元食材の活用増加と地域生産者を招いての食育について、より生産者の顔が近くなり、熱心に食育の推進に取り組まれています。年に2回となった回数を、昨年度並みの学期に1回の3回実施に上積みを目指したい。この事業は「郷土愛」「自尊感情」を高めていく観点からも、ぜひ継続拡大を期待したい。

■生活様式の変化、放課後の遊びの変化が子どもたちの健やかな心身の発達に少くない影響を与えている現況の中で、従来の体育科でのカリキュラムでは補いきれない部分を補完できるコーディネーショントレーニングの実施が100%となったこと、モデル授業や職員向けの研修が実施されたことは、子どもたちの運動能力向上へ大いに期待がもてます。

(4) 安全・安心な学校づくりの推進

- 防災・減災教育の推進
- 避難訓練の計画的な実施
- 防災・減災教育指導資料の作成と活用
- 耐震化の推進
- 施設の安全対策と長寿命化対策

【主な取組と成果】

小学校管理業務

小学校校舎等の補修工事等を行うとともに、校務用パソコンなど小学校で使用する一般管理備品の購入を行いました。また、老朽化等に伴うトイレ環境の改善を図るため、菅島小学校、安楽島小学校において便器の洋式化や、暖房便座設置等の改修工事を行い、快適な教育環境の設備や維持管理に努めました。

また、児童の熱中症対策および学習環境の向上を図るため、各小学校の特別教室へ空調設備の設置を行いました。

○主な改修工事

菅島小学校トイレ改修工事	4,277 千円
安楽島小学校トイレ改修工事	28,507 千円
小学校空調設備設置工事	21,124 千円

中学校管理業務

中学校校舎等の補修工事等を行うとともに、校務用パソコンなど中学校で使用する一般管理備品の購入を行いました。また、老朽化等に伴うトイレ環境の改善を図るため、鳥羽東中学校においての便器の洋式化や、暖房便座設置等の改修工事を行い、快適な教育環境の設備や維持管理に努めました。

また、生徒の熱中症対策および学習環境の向上を図るため、各中学校の特別教室へ空調設備の設置を行いました。

○主な改修工事

鳥羽東中学校トイレ改修工事	27,898 千円
中学校空調設備設置工事	16,990 千円

幼稚園管理業務

幼稚園園舎等の補修工事等を行うとともに、幼稚園で使用する一般管理備品を購入し、安心・安全な幼稚園施設の管理運営を行いました。

また、園児の熱中症対策および学習環境の向上を図るため、かもめ幼稚園の特別教室へ空調設備の設置を行いました。

令和元年10月から施行された幼児教育無償化に伴い、全ての在園世帯に対して保育料の無償化を実施しています。

○幼稚園保育

	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
園児数（令和元年5月時点）	13 名	14 名	18 名	45 名

○預かり保育

登録園児数： 29 名

延べ開園日数： 195 日

延べ利用園児： 1,175 名

○主な改修工事

幼稚園空調設備設置工事 1,266 千円

学校安全総合支援事業

市内小中学校において「鳥羽市防災・減災プラン集 明日へのつばさ」を活用し、授業実践を行いました。また、ESD（持続可能な社会のための教育）の視点に立った防災・減災教育について気仙沼市で実践を進めた及川幸彦氏（現・東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター）を招き、防災・減災教育講演会を開催しました。

鳥羽東・答志・神島・加茂・長岡中学校を実践推進校に指定し、学校防災アドバイザーである三重大学川口准教授から指導助言をいただき、児童が主体的に防災・減災に取り組む活動を行いました。

【成果指標と目標値】

成果指標	平成 26 年度	令和元年度	令和 2 年度
学校施設の耐震化率（小中学校施設の耐震化率）※成果指標は、鳥羽市第 5 次総合計画 1-1-1 まちづくり指標より掲載	93.1%	100%	100%
緊急地震速報受信システムの設置数	幼稚園 1 園 小学校 3 校 中学校 1 校 (設置率約 33%)	幼稚園 1 園 小学校 8 校 中学校 5 校 (設置率 100%)	幼稚園 1 園 小学校 7 校 中学校 5 校 (設置率 100%)

【自己評価と今後の取組】

学校施設の耐震化については、平成 28 年度に神島小中学校校舎建設工事が完了したことにより、市内の小中学校の校舎及び体育館の全てが耐震化されました。今後は非構造部材の耐震化と施設の長寿命化を進めていきます。

平成 29 年度末ですべての学校に緊急地震速報受信システム設置率が 100% となり、システムを活用した避難訓練がすべての学校で行われています。今後は緊急地震速報受信システムの更新を進めていきます。

【委員からの意見等】

〈委員 A〉

■全ての学校施設の耐震化が平成 28 年度に完了していることや、空調設備の設置工事やトイレ改修工事も計画的に実施されていることは、大きな安心材料となっています。

今後の施設の長寿命化を進めるにあたっては、学校を中心とした地域コミュニティの拠点や地域防災等の機能を有する多機能型の体育館にするなど、さらに付加価値をつけ、学校教育環境の向上を検討していく必要があるのではないかと考えます。

〈委員 B〉

■学校の設備の修繕や改修については、中・長期的な観点から計画的に実施していると推察されるので単年度での評価は難しいが、引き続き充実に向けての執行を継続していただきたい。

〈委員 C〉

■便器の洋式化や特別教室の空調設備の設置工事を実施できたことで、子どもたちの安心安全、快適な教育環境の進化がなされた。今後は、海に面している学校が多いことから、塩害の進行具合の観点から施設、遊具の安全確認を丁寧に進めてもらいたい。

■ 2011年（平成23年）の東日本大震災から10年が経とうとしています。各学校が取り組んでいる「防災・減災」教育の推進にとって「鳥羽市防災・減災プラン集 明日へのつばさ」は有意義なものであります。しかし「喉仏過ぎれば・・・」の諺のごとく、各学校の活用実態をしっかりと把握し、いざという場合のより自立的な児童、職員の育成に向けてさらなる推進を期待したい。

（５）これからの学校

- 小中学校の適正規模・適正配置の推進
- 学校施設の適切な管理と良好な学習環境の提供
- ICT機器を活用した教育の推進
- 国際理解教育の推進
- 学校図書館の効果的な活用

【主な取組と成果】

外国人英語指導業務委託事業

かもめ幼稚園及び市内小中学校に外国人英語指導助手2名を派遣し、外国語指導の補助や、子どもたちとの触れ合いにおいて、園児や児童・生徒のコミュニケーション能力の向上と国際感覚の育成を図りました。

英語検定チャレンジ事業

国際観光文化都市である鳥羽市において、児童・生徒の英語への親しみや興味、関心を引き出すとともに、積極的に英語でコミュニケーションを図る力を育てるため、小学校と中学校において、英検 Jr と英検を実施しました。

○英検 Jr 小学6年生： 130名

○英検 中学1・2年生： 255名

学校図書館整備事業

市内小中学校の学校図書館に司書資格を有する者を派遣し、図書館の環境整備や図書担当教員への指導や助言、図書館を活用した授業を推進するなど子どもたちの読解力や文章力の向上に努めました。

○小学校： 29 日/年 中学校： 8 日/年

高度情報通信システム利用教育事業・コンピュータ教育事業

学校におけるパソコン等の情報通信機器を活用した教育を推進するための環境整備を行いました。また、教育上好ましくないサイトの閲覧を制限し、安心な ICT 教育の環境を整備するため各校のパソコン教室で使用する教育用パソコンに Web フィルターを設定しました。

タブレット、プロジェクター、スクリーンの 3 点セットを市内小・中学校学級数の 6 割を目途に整備を行う 5 ヶ年計画の 4 年目として、小学校で 5 セット、中学校で 2 セット購入しました。

< 小学校 >

配置校（学校・台数）	
鳥羽小	2
答志小	1
加茂小	1
安楽島小	1
計	5

< 中学校 >

配置校（学校・台数）	
鳥羽東中	2
計	2

外国語活動推進事業

国際観光文化都市に資する人づくり及び鳥羽の将来を担う子どもたちの国際的なコミュニケーション力の育成を目指すため、安楽島小学校と鳥羽東中学校を英語教育モデル校に指定し、市内小中学校担当者とともに、外国語活動の授業づくりのための研修を行いました。

また、安楽島小学校にて 1 日を英会話で過ごすイングリッシュキャンプを行いました。

○研修会： 5 回 イングリッシュキャンプ： 1 回

【成果指標と目標値】

成果指標	平成 26 年度	令和元年度	令和 2 年度
通学区の再編（統廃合に伴う通学区の再編）※成果指標は、鳥羽市第 5 次総合計画 1-1-1 まちづくり指標より掲載	小学校 9 校 中学校 5 校	小学校 8 校 中学校 5 校	小学校 7 校 中学校 5 校
タブレット型端末・プロジェクタ・スクリーン設置率 （設置学級数／全学級数）	小学校 16% 中学校 18%	小学校 58% 中学校 52%	小学校 60% 中学校 60%
学校図書館司書配置数	2 校	13 校	12 校

【自己評価と今後の取組】

通学区の再編については、鏡浦小学校の児童減少により、令和 3 年度から安楽島小学校へ統合することが決まりました。菅島小学校の統合については子どもたちの学習環境の向上等を図るため、継続して保護者等と協議をしていきます。

授業用タブレット型端末・プロジェクタ・スクリーンについては、計画通り設置することができました。設置しただけにとどまらず I C T 機器の効果的な活用を目指し、更なる実践の推進に向けて情報教育推進委員会の活性化を図ります。

学校図書館司書については、平成 2 9 年度から 8 小学校すべてに配置し、平成 3 1 年度からは、5 中学校へも配置をし、子どもたちの読書に対する興味・関心を高め、読書活動を推進することができました。今後も学校図書館司書との協力により、読書活動の充実を目指します。

【委員からの意見等】

〈委員 A〉

■国際的な観光文化都市を標榜している鳥羽市において、児童生徒の外国語に関わる各事業の充実は、十分に評価できます。ただ、小学校における外国語科の導入により、教職員への負担が懸念されるところです。鳥羽市には、外国人英語指導助手(ALT) 2 名が各校を巡回していますが、2 名では十分な授業支援体制が組めないのではないかと危惧されます。児童生徒が外国人と接することで、多様性を認めることが英語に関心を持つきっかけとなり、学習意欲にも繋がるのではないかと期待できます。

■保育所は管轄省庁が違いますが、幼稚園と保育所の教育的機能に関しては、2018 年「保育所保育指針」の改定により、幼児教育の指針として、「幼稚園教育要領」との整合性が図られました。よって、幼児教育の一環として、幼稚園・保育所のいずれに通っても、ALT とのふれ合い等受けられるように、学習環境の充実を図ってください。

■昨今のデジタル化の推進を考えた場合、教育施設のデジタル化に地方格差があつてはならないと考えます。国の補助を活用しながら、さらにスピード感を持った対応をお願いします。

■ICT 機器を活用・推進し、教育効果を高めるためには、教職員の指導力向上を目指すことはもちろんですが、機器そのものにまだまだ不慣れな教職員もいると考えられます。機器のトラブルに即座に対応できる、ICT 支援員などの人材の配置を検討してください。

■令和3年度からの鏡浦小学校の安楽島小学校統合に向けて、今年度から両校の交流学习が数回にわたり実施されてことは、鏡浦小学校の子どもたちや保護者にとって、大きな安心感に繋がっています。また、両校の連携が十分に図られ、成果を上げていると思います。

〈委員 B〉

■学校図書館司書をすべての小中学校に配置できたことは特筆することができます。また、外国語活動の充実についても、その活動成果が現れつつあるので、引き続き各事業の継続が望まれます。

〈委員 C〉

■ここ数年来、学校図書館の環境を整備するため、「本」への興味関心を育むための司書資格を有した専門家の派遣について、厳しい予算措置の中で小中学校共に派遣日数の上積みと確保が進んでいることは、ゲーム中心の生活を送る子どもたちが多くなっている中、読書離れの抑制や子どもの想像力の育成に大いに寄与できるものであると評価できます。

【施策 2】地域全体で取り組む教育の推進

（1）学校と家庭・地域の連携強化

- 家庭・地域との連携推進
- 学校評価の充実
- 家庭・地域の教育力の向上

【主な取組と成果】

教育振興管理事業（再掲）

学校運営協議会委員や学校評議員を委嘱し、意見や助言をいただくことにより、地域及び家庭と学校との連携を図り学校運営に生かすように取り組みました。

寝屋子の島留学事業

答志中学校区をモデル地区として離島留学に取組み、実施委員会との協議や打合せを実施しました。また、研修会の実施や留学生を受入れるためのPR活動を実施し、令和元年度4月より島親（里親）留学2名の受け入れを行いました。

学校ボランティアパートナーシップ事業

読み聞かせのボランティア団体「ミルキーウェイ」と「読み聞かせの会」の協力を得て、希望する小学校を訪問し絵本や紙芝居を用いた読み聞かせを行いました。学校での読書指導と合わせ児童の読書への関心・意欲の向上を図り、想像力や感性を豊かにすることができました。

○令和元年度学校訪問回数

ミルキーウェイ 3回

読み聞かせの会 11回

【成果指標と目標値】

成果指標	平成 26 年度	令和元年度	令和 2 年度
学校ボランティアの活用数	小学校 5 校 中学校 1 校	小学校 8 校 中学校 5 校	小学校 7 校 中学校 5 校
学校関係者評価の公表数	小学校 5 校 中学校 4 校	小学校 8 校 中学校 5 校	小学校 7 校 中学校 5 校

【自己評価と今後の取組】

地域からの特色ある人材を講師やボランティアとして協力していただき、さまざまな体験活動を行っていくことなどを通して、学校と地域との相互連携を進めました。

学校関係者評価の公表については、すべての学校が実施しています。家庭・地域・学校が三位一体で教育を行い、それぞれが連携した学校づくりをさらに進めていくために、全校実施を継続していきます。

【委員からの意見等】

〈委員 A〉

■子どもたちの健やかな成長を願い、同じ目的のために対等な立場で協力し合う姿は、鳥羽市のどこの地域にも、脈々と受け継がれてきています。そういう意味では、早期にすべての学校をコミュニティー・スクール化し、真に「地域とともにある学校づくり」の推進に努めていただきたいと思います。寝屋子の島留学事業は、地域住民が当事者となって、学校との連携を図っている好事例であると考えられます。

〈委員 B〉

■学校ボランティアの活用や学校関係者評価の公表等、学校と家庭・地域の連携のための取り組みは充実していると評価することができます。ただし、今後の学校の適正規模・適正配置（統廃合）を見据えた場合、学校と地域の関係性の再編・再構築が不可避であります。したがって、教育委員会においては、それに備えた施策を準備しておく必要があると思われます。

〈委員 C〉

■ボランティア活用数、学校関係者評価数からも学校・家庭・地域の連携が十分行われています。

■寝屋子の島留学事業について、この事業を推し進めていくことについて、海洋教育の推進との観点も踏まえて、意義をどのようにとらえ、今後の見通しをしっかりと評価していただきたい。また、「離島留学」について関係機関はもちろん、市民はどんな反応であったか等、検証する場の必要性を感じます。

(2) 青少年育成活動の充実

- 次世代を担う青少年の育成
- 地域社会の中で子どもを育てる環境づくり

【主な取組と成果】

放課後子ども教室推進事業

放課後の子どもたちの居場所づくりと新たな体験の機会提供を兼ねて、従来から実施している加茂小学校・安楽島小学校の2校区に加え、今年度から試験的に鳥羽小学校でも、水曜日に放課後子ども教室を開催しました。コーディネーターには実施にあたってのアイデアをいただき、お菓子づくりや工作のほか、バドミントンなどの体を動かす活動などを行い、放課後の有意義な時間づくりに努めました。

各教室別内訳	回数（回）	参加者 延べ人数（人）	登録者数（人）
かもっこ放課後子ども教室	14	427	67
あらっこ放課後子ども教室	19	849	138
とびっこ放課後子ども教室	3	90	46
計	36	1,366	251

青少年サポートセンター運営事業

子どもたちの登下校時を中心にサポートセンター職員による見まわり（週3回）を実施したほか、関係機関の職員や指導員とともに、赤崎祭りやみなとまつりの際のパトロールや夏休み中の市内一円の夜間パトロールを実施し、青少年の非行防止、健全育成に努めました。

また、有害環境から子どもたちを守るため、コンビニエンスストアに対して立ち入り調査を実施しましたが、コンビニが成人向け雑誌の取扱をやめたため、立ち入り調査も終了することになりました。このほか、南勢志摩地区の高等学校・補導センター・管轄警察が出席する連絡協議会に参加し、地域の学校に通う高校生の状況について協議・情報共有を図りました。

○指導員の巡回指導等実施状況

実施内容	回数（回）	参加人数（人）
随時指導	132	137
合同指導	12	24
特別合同指導	3	55
啓発活動	2	17
環境浄化活動	9	18
合計	158	251

【成果指標と目標値】

成果指標	平成 26 年度	令和元年度	令和 2 年度
青少年健全育成活動巡回指導参加者数	286 名	251 名	300 名
放課後子供教室設置数	2 教室	3 教室	3 教室

【自己評価と今後の取組】

鳥羽市青少年サポートセンターによる見守り活動やパトロールのほか、鳥羽警察署や南勢志摩児童相談所といった関係機関と連携して市内のまつりの際に合同パトロールを行い、青少年の健全育成に努めました。

放課後子ども教室については、安楽島小学校、加茂小学校において、まち探検やケーキづくり、バドミントン教室等の多岐にわたる体験を実施しました。また、かねてから鳥羽小学校での実施希望があったが、下校に使う交通手段が多様であり、安全に下校できる終了時刻と活動時間確保との兼ね合いが難しいという課題があります。その中で、年間3回、学校の活動が早く終わる日があり、当該日に放課後子ども教室の体験を試行しました。

【委員からの意見等】

〈委員 A〉

■活動時間の確保が難しい中、鳥羽小学校の放課後子ども教室が新たに開設されたことは、高く評価できます。今後とも、子どもたちの居場所作りと新たな体験機会の提供のため、各校の実情に合わせた臨機応変な事業展開を期待します。

■早朝から地域の方々や先生、保護者による街頭指導が行われ、ありがたく心強く感じています。ただ、通学路に街灯が全くない道路があります。夕暮れ時、部活動で暗くなって下校する生徒の姿を、自動車を運転しながら見かけることが多く、心細い思いをしているのではないかと同情を寄せています。最近では、防犯だけでなく野生の猿に遭遇することも懸念されます。今一度、通学路点検を行い、児童生徒の安全確保のため、早急に対応していただきたいと思います。

■青少年の問題行動は沈静化している一方で、SNS を介したいじめ等が増加しています。多様化する社会情勢にあわせて、学校や保護者等との連携を図り、複数の視点で見守りができるよう啓発し、効果的な運営を図ることが必要であると考えます。

〈委員 B〉

■青少年育成活動は、多くが地域住民の協力で支えられて実施されており、肯定的に評価することができます。可能であれば、広報誌などに活動の様子を紹介することで、より多くの住民が認知し、参加への契機とすることができれば、継続・発展につながるものと思われます。

〈委員 C〉

■放課後子ども教室推進事業は、町探検、ケーキ作り、様々なスポーツと頭も体も使う多岐にわたる活動で、内容が工夫され充実したものになっています。鳥羽小校区へ展開みたいなのが離島地域、相差地区へも拡大され、特定地域だけではなく、鳥羽市全体で子どもたちの育ちを支えられる事業に発展できればと考えます。

■青少年サポートセンターによる週3回の見守り活動や合同指導を継続していくことは大変なことと同時に、青少年を健全育成というよりよい方向に導くということで、意義のあるものであります。青少年の指導という観点で、赤崎祭りやみなと祭りを除いて、見守り活動について、最近の青少年の生活実態との整合性を検討していただきたい。

【施策3】社会教育・スポーツの振興

（1）誰もが学べる生涯学習の推進

- 生涯学習講座の充実
- 図書館運営事業の充実
- 第2次鳥羽市子ども読書活動推進計画に基づく読書活動の推進
- 人権を尊重する啓発・学習活動の推進
- 地域づくりに関わる人材育成の推進

【主な取組と成果】

社会教育事務局運営事業

社会教育委員会を開催し、本市の取組みについて協議しました。東海北陸社会教育研究大会が三重県津市で行われ、本市からも6名が参加し、分科会の運営など大会の運営に携わったほか、他地域の事例を学びました。また、県内の小学5・6年生及び中学生を対象に、「第23回海の香りのする詩」を募集し、市内小中学校の部の入賞者が市民文化祭で発表を行いました。

海の香りのする詩 作品応募内容内訳 (単位：点)		小学生	中学生	合計	応募総数
	市内	239	388	627	933
	市外	61	245	306	

生涯学習推進事業（成人式）

新成人14名で実行委員会を組織し、開催テーマは、「令和新時代切り開け希望の持てる未来へ」を掲げ、令和初の成人式を開催しました。1月12日の式典では、商工会議所かもめホールを会場とし、実行委員会が作成した思い出のピクチャーの上映等を行いました。

また、記念品として鳥羽水族館、ミキモト真珠島、鳥羽湾巡りとイルカ島、海の博物館のいずれか1箇所に行ける施設入場券を贈り、新成人の門出を祝うことができました。

新成人（人）	式典参加者数（人）
191	162（市外34）

人材育成講座「地球塾」事業

人材育成講座の地球塾も18期生を迎え、今年度は「地域の歴史文化を見直す」をテーマに地元に残る「御木本幸吉と真珠」・「鳥羽城跡」・「坂手島の釣り漁」など地域の歴史・文化を学ぶ講座を開講しました。

また、副読本「とぼっこ探偵団」を活用した郷土学習を推進するため、今年から小学5年生を対象にした「海女」をテーマにした「とぼっこ検定」がスタートしました。検定は、海の博物館でウォークラリー形式で行い、子どもたちはグループで問題にチャレンジしました。

次年度は、小学6年生を対象に「鳥羽城と九鬼嘉隆」をテーマとした検定を実施するにあたり、事前学習に必要となるドリルの作成を、教員の意見を得ながら行いました。

講座種類	回数（回）	参加者延べ人数（人）
地球塾講座	5	157
郷土学習出前講座	5	106

社会教育関係団体育成事業

社会教育団体の活動に対して補助金を交付し、各団体の自主的な活動を支援し、青少年等の健全育成や歴史研究・文化活動の発表など、文化振興を図りました。

○主な活動内容

助成団体	活動内容
鳥羽市PTA連合会	単位 PTA 相互の連携を図り、学校・家庭・社会における幼児・家庭・児童・生徒の健全育成に努力しました。
鳥羽市青少年育成市民会議	凧作り教室や新春凧あげ大会、スターウォッチングを開催したほか、情報発信として機関紙「月桂樹」を発行し、活動の周知を行いました。各地区の活動とともに青少年の非行防止への取り組みを行い、青少年の健全育成にあたりました。

鳥羽市文化協会	市民文化会館大ホールの閉鎖により、市民文化祭については、音楽芸能の部を鳥羽小学校体育館、芸術の部を市民文化会館において開催し、市内の文化活動団体の発表を行いました。
鳥羽郷土史会	鳥羽の歴史文化を次世代に継承するため、学習会を開催しました。今年度は、鳥羽城の地震被害に関する講演会を開催したほか、例会や会報の発行を行いました。
鳥羽恐竜研究振興会	鳥羽竜の化石発見現場での修学旅行対応や案内、地質にかかる勉強会の開催、夏休みの宿泊体験や化石レプリカ作り等の事業を行い、化石や地域の地質への関心を高めました。

公民館維持管理事業

中央公民館のほか、市内の公民館分館の光熱水費の支出や修繕を行いました。地域の分館が老朽化しており、修繕については地域の要望を聞き、緊急性の高いものなどを優先的に実施しています。主な事業としては、屋内分館のトイレの水洗化と洋式化の工事などを行いました。

○主な改修工事

中央公民館屋内分館改修工事 1,166 千円
(浄化槽設置、トイレ洋式化)

公民館活動推進事業

中央公民館を中心に、幅広い世代の市民の学びの場として、17の定期講座のほか、地元宿泊施設のシェフによる料理講座等特別講座として開催した6講座や夏休みの親子体験の3講座、人権推進事業との共催による1講座の計27講座を開催しました。

また、今年度は定期講座では、新たに「篆刻」や「日用書道」、特別講座では「松阪木綿で御朱印帳を作ろう」、「楽しいフォークダンス・レクダンス」の講座を新たに開

催し、生涯学習の推進を図りました。

受講者は３７３名で、延べ人数は１，０９３人となりました。

○開催した生涯学習講座

講座名	回数	延べ 人数 (人)	講座名	回数	延べ 人数 (人)
みんなで簡単な踊りをしましょう	6	174	世界の珈琲	3	14
３Ｂ体操	6	50	はじめての消しゴムはんこ	3	11
ピラティス	6	93	長尾オルガンで歌いましょう	3	41
ソフトヨガ	10	65	松阪木綿で御朱印を作ろう	1	7
はじめてのバレトン	5	82	キャンドル	中止	－
ステップアップ Excel2010	3	27	楽しいフォークダンス・レク ダンス	1	12
はじめてのペン習字	6	78	鳥羽の魚介と海藻料理の レパートリーを増やす	中止	－
初めての篆刻	5	57			
日用書道	5	40	ウインターリース	1	6
指文字アート	5	54	鳥羽国際ホテルのシェフに学ぶ料理	1	22
絵画	6	81	オランダの家庭料理	1	12
アートクレイシルバーア クセサリー	3	19	夏休み体験（キャンドル）	1	27
やきものをたのしむ	5	32	夏休み体験（陶芸）	1	46
季節のガーデニング	3	28	夏休み体験（羊毛フェルト）	1	15
合計（全 27 講座）				91	1,093

図書館運営事業

第２次鳥羽市子ども読書活動推進計画に基づき、小中学校への出前ブックトークの実施や図書館での絵本と紙芝居の読み聞かせ、おはなし会等を開催し、読書に親しむ機会づくりを提供しました。また、開館３０周年記念のトートバッグを行事参加者等に配布しました。

○図書館行事一覧表

行事名	開催月・回数	参加者数 (延人数)	行事名	開催月・回数	参加者数 (延人数)
絵本とかみしばいの会	毎月 1 回	58	冬休みおはなし会	12 月 (1 回)	27
赤ちゃん絵本の会	毎月第 4 金曜日	49	工作&おりがみ教室 「いろんなネズミを作ろう」	12 月 (1 回)	13
おはなし会	毎月第 1 土曜日	83	大人のためのおはなし会	2 月 (1 回)	27
ブックトーク	毎月 1 回	37	ストーリーテリング 勉強会	毎月第 3 火曜日	12(会員)
ストーリーテリング 講習会	5～6 月 (3 回)	67	読書会	毎月第 2 火曜日	11(会員)
夏休みおはなし会	7 月 (1 回)	22	古文書講座	10～2 月 (5 回)	19(受講生)
おりがみ教室 「うちわを作ろう」	7 月 (1 回)	5	俳句講座(文化講座)	毎月第 1 木曜日	15(受講生)
手作り絵本講習会	7.8 月 (2 回)	16	書道講座 (文化講座)	毎月第 2 金曜日	20(受講生)
工作教室「風鈴を作ろう」	8 月 (1 回)	6	短歌講座 (文化講座)	毎月第 3 木曜日	10(受講生)
「絵本と子育て」講演会	10 月 (1 回)	42	絵画講座 (文化講座)	毎月第 4 木曜日	7(受講生)
世界の KAMISHIBAI の日	12 月 (1 回)	12	本のリサイクルフェア	9～10 月	希望者 255 人 1,879 冊

○展示会・作品展

展示名	期間	展示名	期間
こどもの読書週間 を楽しもう!	4 月 19 日～5 月 12 日	凧展示	11 月 26 日～12 月 10 日
教科書展示	6 月 14 日～27 日	絵画講座作品展	12 月 12 日～24 日
原爆と人間展	7 月 20 日～9 月 1 日	市内小中学校 書き初め作品展	1 月 17 日～31 日
夏休み!読書をしよう!!	7 月 20 日～9 月 1 日	オリンピック聖火リレーハ ル展示	2 月 1 日～25 日
手づくり絵本ミニ作品展	8 月 11 日～25 日	令和元年度文化講 座作品展覧会	2 月 28 日～3 月 10 日
「知る、行く、つな がる。熊本・大分と 東北」キャンペーン	9 月 13 日～20 日	写真家佐藤健寿 写真展示	3 月 12 日～
読書週間展示	10 月 24 日～11 月 10 日		

○図書館利用状況

登録者数 (人)	入館者数 (人)	会議室利用件数 (回)	コピーサービス (枚)
12,083	75,704	208	5,128

○貸出状況

(冊)

一般書	児童書	郷土・雑誌	視聴覚他	計	内、団体貸出冊数
54,059	37,284	6,260	1,248	98,851	11,216

○蔵書数

(冊)

平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
188,851	192,602	194,163

○職業体験・社会見学受入状況

加茂・長岡・答志・鳥羽東中学校（職業体験）： 9 名

加茂小学校・玉城わかば学園（社会見学）： 29 名

○市内小中学校へのブックトーク実施

小学校： 8 校・45 回

中学校： 4 校・8 回

子育て支援（ブックスタート）事業

健康福祉課が行う 7 ヶ月児健康相談時に、赤ちゃんと保護者の心がふれあうきっかけづくりとして、ブックスタートパック（絵本 2 冊、赤ちゃんの絵本リスト、トートバッグ等）を手渡し、絵本の楽しさや魅力を伝えました。

コミュニティアリーナ維持管理事業

スポーツ・文化活動の拠点として、各コミュニティアリーナの維持管理・修繕を行い、施設が安全に使用できるよう、施設管理に努めました。答志コミュニティアリーナは島の旅社推進協議会に管理運営委託し、地域における各種スポーツ団体の練習のほか、県内外の高校の夏合宿や来訪者の体験活動の場として活用しました。

【成果指標と目標値】

成果指標	平成 26 年度	令和元年度	令和 2 年度
生涯学習講座受講者（延べ人数）	1,359 名	1,110 名	1,400 名
図書貸出冊数（市立図書館）	104,972 冊	98,851 冊	110,000 冊

【自己評価と今後の取組】

生涯学習を推進する中で、定期講座に加えて特別講座や夏休み親子教室等、のべ27種類の講座を企画・開催し、市内における多様な年齢層の学びの場を提供しました。

図書館ではブックスタート事業において、7ヵ月健診時に保護者へ絵本の魅力や図書館利用について説明し、小中学校へはブックトークや団体貸出を行っています。令和元年度は、開館30周年事業として、貸出等のポイント制によるオリジナルトートバッグを300人分配布し、図書館を身近に感じてもらえる機会となりました。今後も誰もが利用しやすい図書館を目指し、資料の充実や館内整備をしていきます。

【委員からの意見等】

〈委員 A〉

■人材育成講座事業では、地域の歴史や文化を学ぶ講座を開設し、地域文化への継承の取り組みの推進が図られました。また、「とばっこ検定」では、今年度から5年生の「海女」をテーマにした検定がスタートし、海の博物館でウォークラリー形式で行われました。子どもたちが興味をもって文化的社会教育に挑戦し、楽しみながら学べることは、すそ野を広げられる取り組みであると評価します。

■公民館活動推進事業では、バラエティーに富んだ講座を開設し、幅広い年齢層の市民の学びや楽しみの場づくりへと繋がっています。今後も市民のニーズを把握して、充実した講座を開催していただき、同時に地域と行政の交流拠点としての機能も図っていただきたいと思います。

■図書館運営事業では、年間を通して様々な図書館行事の開催や展示会や作品展などの工夫が見られます。また、ボランティアの方々の協力のもと、出前ブックトークや読み聞かせ等開催や、移動図書館などの取り組みの工夫も図られ、市民が読書に親しむ機会を十分に提供していただいていると評価できます。人口が減少に転じる中、貸出冊数の大幅な落ち込みが見られないのは、こうした図書館運営の地道な活動の努力が成果となって表れているのだと感じています。

他方で、さらに図書館運営の充実を図るためには、新規の登録者数を増やしていく必要があると思います。例えば、平日の仕事帰りの労働者や、離島に住む人の利用状況などを検証していくことも、必要ではないかと考えます。

〈委員 B〉

■公民館や図書館では多様な講座や行事が企画・実施されており、生涯学習の充実という観点から評価することができます。しかしながら、一部において、参加者が少ない企画も散見されるので、講座内容の適否については検証をいただき、必要に応じて見直すことも求められます。

〈委員 C〉

■公民館での生涯学習講座、図書館でのブックトーク等の様々な事業は市民の交流を下支えしたり、健康維持、地域社会の活性化したりと役立っており、今後もこのような展開を続けてもらうことを期待します。ただ、講座によってはひと桁台の少人数参加数もあり、その希少性の価値と必要性を改めて検証する必要性と新講座の発掘も視野に入れて検討してください。

（２）歴史・文化遺産を生かした郷土学習の推進

- 文化財の調査・収集・保存
- 文化財の展示収蔵施設の整備
- 郷土学習の推進
- 無形文化や民俗文化の保存

【主な取組と成果】

歴史文化ガイドセンター事業

市街地の入口に立地する歴史文化ガイドセンターを借上げ、九鬼嘉隆展を常設し、鳥羽の歴史・文化を紹介しました。

また、今年度は、松江歴史館所蔵の「極秘諸国城図」の中に最古の鳥羽城の絵図が確認されたことから、ミニパネル展で紹介を行いました。

文化財保存推進事業

市内の指定、及び登録文化財等の保全、活用を推進するため、工事等を実施しました。

旧鳥羽小学校については、今後の活用に向けて実施していた耐震補強工事が平成30年度で完了したため、今年度から外壁改修工事を開始し、校舎東側の側面部の外壁を改修しました。

また、指定文化財の日和山の方位石、鳥羽城跡の案内看板が傷んでいたことから、後世に伝えていくため、案内板をリニューアルしました。

伊良子清白の家は、平成21年のマリパークへの移築から10年が経過し、移築時に整備したウッドデッキ部分が老朽化してきたことから、修繕を実施しました。

そのほか、「海女（Ama）に出逢えるまち鳥羽志摩」が日本遺産に認定されたことを受け、さらなる海女文化をPRするため、日本遺産の補助事業を活用し、海の博物館の海女の展示のリニューアルを行いました。

文化財調査事業

三島由紀夫が神島滞在時に交流した人々との手紙や写真などの資料をまとめた図録「三島由紀夫と神島」を刊行し、全国の主要図書館・大学図書館・神島町民等に配布しました。

また、新たに確認された九鬼嘉隆に関する文書の調査や、三重大との共同研究として、海女集落の景観調査を行なうなど、鳥羽の歴史文化の調査研究を行いました。

文化財収蔵展示施設運営管理費

「鳥羽大庄屋かどや」について、かどや保存会への指定管理委託により、保守管理を行いました。今年度も様々な展示と、イベント・教室等を実施しましたが、2月末から、コロナウイルスの影響による催しの中止、3月の臨時休館などの影響もあり、入館者は5,835人で、前年度より1,300人ほど減少しました。

博物館運営事業

市営化して3年目を迎え、今年度は特別展「クジラはアートだ!」、企画展『「坂手島～島を支えた伝統の一本釣り」など3本の企画展示を行いました。特に、「坂手島」展では、古写真や漁具などの展示を通して、かつて釣り漁で栄えた坂手島について紹介しました。坂手島出身のかたにもお越しいただき、坂手島の歴史を市民のみならず、対外的に紹介することができました。

ギャラリー棟でも、三重大学海女研究センターが実施している海女の古写真のアーカイブ事業の成果紹介の写真展など4本の展示を行いました。特に、編み師 203gow さんの作品を展示した企画展「鳥羽の編んだ～SEA わ～るど」は可愛い作品が展示され、親子連れを中心に、ニュースなどでも取り上げられ大好評でした。

このほか、体験活動として、磯に出ての生き物観察や、昔ながらのテンマ船を漕ぎだす体験、鳥羽の海の豊富な海藻のおしばをレジンで固めてストラップを作るクラフト体験等を実施し、子どもたちが海を身近に感じられる機会を創出し、県内外の修学旅行の受け入れも行いました。

本博物館の一部に設置されている「三重大学海女研究センター」では、昨年度に引き続き、本地域で撮影された古い海女写真等のデジタルアーカイブ化が進められ、画像や記録を元に時代背景を紐解く取組みが行われ、今後の博物館での発信拡充につながりました。

指定管理業務以外では、消防設備改修工事として、これまでの小型ポンプ式の設備に

代えて展示棟にパッケージ型消火栓を設置したほか、海女展示のリニューアルに伴い、フナド海女模型を制作し設置しました。

今年度は、「竹あかり」や「お絵描き水族館」など、市や関係機関が実施する大きな催しがなく、3月に海女展示のリニューアルを行ったものの、コロナウイルスの影響により春休み中に臨時休館することになるなど、厳しい状況となりました。最終的な入館者は、25,746人（対前年比16%減）となりました。

【成果指標と目標値】

成果指標	平成26年度	令和元年度	令和2年度
指定文化財の数	73件	73件	78件
郷土学習出前講座 実施の小学校数	2校	5校	7校
文化財展示施設の数	2施設	3施設	3施設

【自己評価と今後の取組】

調査事業としては、鳥羽城や九鬼氏に関する史料調査を行なったほか、三島由紀夫と神島との関わりなど、本市の歴史文化にかかる調査を実施しました。

保存事業としては、旧鳥羽小学校校舎の耐震補強や外壁改修、海の博物館の消防設備改修等を行いました。

郷土学習については、市内の小学校において、昨年度スタートした4年生の「御木本幸吉」学習に加え、5年生の「海女」学習を開始し、学校での学習や施設見学、実物資料を見ながらのウォークラリー等の活動を推進しました。

文化財展示数は平成29年度の海の博物館の市立化に伴い、3施設となっています。

【委員からの意見等】

〈委員 A〉

■指定文化財が数多く点在する鳥羽市において、様々な事業を立ち上げて、歴史、文化を生かしたまちづくりを積極的に推進していることは、大いに評価できます。あらゆる世代に、「歴史のまち鳥羽」を再認識していただくことが、今後の課題であると考えます。併せて、小中学校では、鳥羽市や地域の文化財などを学習活動に位置づけ、すべての児童生徒が、鳥羽の歴史文化に触れることを期待しています。

■博物館運営事業では、「海女(Ama)に出逢えるまち鳥羽志摩」の日本遺産認定を受けて、海女文化のPRが積極的に行われました。海女展示のリニューアルは、とてもインパクトがあり、集客力のある企画展・発信力の向上に繋がられた取り組みだと思います。まだ市営化3年目ですが、文化財を活用したイベントが工夫され、体験、学びの場としての価値が認められ学校教育・社会教育に役立てられていることは高く評価できます。

〈委員 B〉

■歴史・文化遺産を生かした郷土学習が、博物館や小学校において実施されており、今後も継続することが望めます。歴史・文化遺産は住民を対象とした郷土学習のために活用するのみならず、市外の人々に対して鳥羽の魅力を発信するためにも活用することが出来ると思われれます。したがって、歴史・文化遺産に関する行政事務においては、首長部局とも連携し、戦略的に実施することが望ましいと思われれます。

(3) 生涯スポーツを通じた活力ある生活の推進

- スポーツ推進事業の充実
- スポーツ団体との連携強化
- 中央公園運動施設の整備
- 学校体育施設の活用
- 国民体育大会「三重とこわか国体」への準備

【主な取組と成果】

保健体育総務業務

三重県でスポーツ推進委員研究協議会の全国大会が開催され、全国の先進事例発表を聞き、委員の資質向上を図ったほか、地域イベントの実施を支援し、スポーツの普及推進に努めました。

生涯スポーツ振興事業

スポーツ競技の全国大会等に出場するなど顕著な成績を収められた個人及び団体に対し、激励金を交付するための基準を定め、支出を行ったほか、コーディネーショントレーニングでは、答志小・中学校でモデル授業を実施したほか、スポーツ推進委員や保育士等を対象に指導者講習会を開催し、指導者の育成を図りました。また、鳥羽市民大運動会については台風接近に伴い、中止となりました。

項 目	回数（回）	参加者延べ人数（人）
鳥羽志摩中学校相撲大会	1	49
鳥羽市小学校相撲大会	1	115
障がい者スポーツ教室	9	203
コーディネーショントレーニング	19	400
鳥羽市民大運動会	台風接近に伴い、中止	

学校体育施設開放事業

子どもや大人が気軽にスポーツを楽しむ場を提供するため、学校教育に支障のない範囲で学校体育施設を開放し、スポーツ活動を通じて市民の健康増進や体力向上に努めました。

体育施設開放校数(校)	利用者延べ人数(人)
10	26,166

市民体育大会事業

市民体育館の改修工事に伴い、多数の室内競技において、市民体育大会の開催が危ぶまれましたが、学校体育施設を活用することにより、無事に開催でき、市内外問わず多くの方が参加しました。また、総合開会式では、全国・東海大会等で優秀な成績を収めた選手に表彰を行い、その功績を讃えました。

市民体育大会		表 彰	
競技数	参加者数(人)	選手(人)	チーム
16	866	30	0

国民体育大会準備事業

令和3年度に開催される三重とこわか国体に向け、実行委員会で計画等を協議し、先催地の視察で得た情報をもとに本市に合った計画を策定したほか、気運醸成を図るため、答志保・小・中学校合同運動会やひだまりフェスタなど市民の方が集まるイベントにPRブースを出展し、国体開催の周知を行いました。また、フェンシング競技を知ってもらうため、鳥羽市フェンシング協会や鳥羽高等学校と連携し、小・中学校で体験イベントを行いました。

○会議等の開催

名 称	開催回数	策定した各種計画等
総務企画専門委員会	2 回	大会運営ボランティア募集要項等
競技式典専門委員会	2 回	式典基本計画等
宿泊衛生専門委員会	1 回	医療救護対策要項、防疫対策要項等
輸送交通専門委員会	1 回	輸送・交通業務実施要項等
常任委員会	1 回	
総会	1 回	

○啓発イベントの開催

名 称	開催回数	実施場所
一緒に踊ろう♪とこわかダンス	1 回	あおぞら保育所
フェンシング普及事業	3 回	安楽島小、加茂小、答志中
とこわかダンスの披露	1 回	答志小学校
ぬり絵をしよう！	1 回	保健福祉センターひだまり

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、加茂中学校でのフェンシング普及事業と鳥羽商船高等専門学校でのスマートフェンシング体験会は中止しました。

学校体育振興事業

小・中学生がスポーツ活動を通じて、心身の健全な発達やコミュニケーション能力を向上できるよう、各種大会に参加する旅費等の助成を行いました。また、学校水泳では、小学生に泳力を習得させ、水の事故防止と体力の向上を目的に実施しました。

友好都市提携事業（再掲）

三田市が本市を訪問し、加茂小学校体育館にて小学生によるミニバスケットボールを行ったほか、スポーツ交流後の市内施設見学では、鳥羽水族館を訪れ、一緒に館内を回るなど、交流を深めることができました。

運動施設管理運営事業

中央公園運動施設の管理運営を（公財）鳥羽市武道振興会に委託し、施設の維持管理と利用促進を図りましたが、市民体育館の改修工事に伴い、利用者数が大幅な減となりました。メインアリーナの改修については、令和元年度末に完成しており、令和2年度に向け、貸出業務を行う会議室の机や椅子のほか、諸室に必要な備品の購入を行いました。

○利用者数

施設名	利用者数（人）
体育館	4,663
野球場	3,653
庭球場	2,233
多目的グラウンド	4,696
相撲場	632
水泳プール	4,963
合計	20,840

○自主事業

自主事業開催数（回）	参加者延べ数（人）
5	144

【成果指標と目標値】

成果指標	平成 26 年度	令和元年度	令和 2 年度
学校体育施設利用者数	33,239 名	26,166 名	34,000 名
鳥羽市中央公園運動施設利用者数	44,910 名	20,840 名	45,000 名

【自己評価と今後の取組】

学校体育施設利用者数については、身近にスポーツ活動が行える場を提供することで、継続的にスポーツ活動を行い、市民の健康と生涯スポーツの推進を図りました。

鳥羽市中央公園運動施設利用者数については、テニスコートが砂入り人工芝に改修されたことに伴い利用者増加につながりました。しかし、市民体育館改修工事及びサブアリーナ増築工事に伴い、市民体育館や多目的グラウンド（半面）が利用できなくなったことにより利用者数が大きく減少しました。

【委員からの意見等】

〈委員 A〉

■市民大運動会について、台風接近等で3年連続中止になりました。学校の統廃合により、地域をあげての運動会がやむを得ず廃止になった地域もある中で、市民大運動会は子どもから大人まで、市民が気軽に参加しやすいイベントであるため、生涯スポーツの視点から、中止ではなく、延期などの検討をお願いします。

■令和3年度に行われる三重とこわか国体に向け、熱意をもって取り組まれています。市民へのPRを強化し、フェンシング体験イベントや啓発イベントが開催されました。これにより、市民の三重とこわか国体への感心を高めること繋がったものと思います。

■テニスコートの人工芝への改修、市民体育館メインアリーナの改修など、市民の健康増進と生涯スポーツが推進できる環境整備が図られたことは、大変評価できます。また、市民が気軽に価値ある活動ができるよう期待しています。令和2年度には、熱中症対策として空調設備が整備されたサブアリーナも完成しましたので、今後の文化活動の推進にも期待しています。

〈委員 B〉

■日常的なスポーツ振興のみならず、国体に関連した企画実施や施設整備も進められており、スポーツに関する取り組みは充実したものとなりつつあります。

その他の施策

就学援助事業

経済的理由により就学することに支障をきたしている児童・生徒の保護者からの申請に基づき、就学にかかる経済的援助を行いました。

また、地理的条件のため遠距離通学をしている児童・生徒の保護者に対し、通学費の補助を行い保護者の経済的負担の軽減を図りました。

○準要保護児童・生徒就学援助費扶助対象児童数： 121 名

遠距離通学費補助対象児童数： 131 名

○準要保護児童・生徒就学援助費扶助対象生徒数： 68 名

遠距離通学費補助対象生徒数： 17 名

高校生修学支援事業

教育における経済的負担の軽減を図るとともに、子育て支援及び定住促進に資するため、本市に在住している高校生の通学費の一部や、通学が困難で下宿をしている高校生の下宿費の一部を補助しました。また、募集時には近隣高校の該当生徒へ募集案内の配布などを行い、本補助制度の周知と申請件数の拡大に取り組みました。

○補助件数

・通学費： 279 件 （本土 223 件、離島 56 件） ・下宿費： 14 件

【自己評価と今後の取組】

就学援助事業については、学校教育法に基づき経済的支援を行っているもので、今後も継続した支援を実施していきます。また、高校生修学支援事業についても、特に離島地域からの高校通学にかかる家庭の経済的負担が大きいことから、継続して補助を行っていきます。

【委員からの意見等】

〈委員 A〉

■鳥羽市の児童生徒が経済的な理由により、誰一人として学習機会を奪われないよう、今後も継続した支援、補助事業を切に願います。

【報告書全体を通しての意見】

〈委員 A〉

■点検・評価をするにあたり、一つ一つの施策の展開について、各課より丁寧な説明をして頂きました。令和3年度からの新たな5カ年の「教育大綱」の計画案も策定され、その内容から、教育行政の前向きな方向性が感じられました。令和元年度は、様々なふるさと学習を通して、自尊感情と郷土愛を育む教育の事業展開に、力を注いだ1年であったと思います。今後さらに、子どもたちの自尊感情の向上を図り、生命を大切にすることを育むための活動の機会を広げていってほしいと思います。

少し余談になりますが、私の勤務する高齢者福祉施設には、毎年、委員会活動や職業体験で子どもたちが来てくれる機会があります。核家族の増加で、子どもたちと高齢者がかかわりあう機会が減少している現代社会において、年代や立場の違う人との交流は、子どもたちの社会性や豊かな情操性の育みに繋がり、また高齢者の生きがいや地域社会とのかかわりを生み出すことで、相乗効果が期待できるといわれています。学校の教育活動が、地域社会との接点を持つことで、得られる価値は大きいものがあります。今後も社会に開かれた教育活動が、積極的に推進されていくことを期待しています。

令和元年度は、新型コロナウイルスの影響で、臨時休校を余儀なくされ、計画していた行事や活動ができないものがたくさんありました。これからは、国が進めるGIGAスクール構想で、ICT環境が急速に整備されつつありますが、同時に、双方向のコミュニケーションがとれる授業や、子どもたちの心を育てる教育、学校でしかできない学びの場を作ることが重要になってくると思います。これからも、未来を担う子どもたちのために、教育委員会が先頭に立ち、自らの未来を主体的に切り拓くことができる力を身につける取り組みを発展させていただきたいと思います。

〈委員 B〉

■教育委員会の運営について、適切に点検・評価されている。点検・評価を通じて明らかになった“強み”を一層伸長し、課題を改善するよう努めていただきたい。

■各事業の決算金額を、過去数年間の推移とともに示していただけると、評価を行うにあたっての指標の一つとして活用することができますので、検討いただきたい。

〈委員 C〉

■今回はじめてこの教育委員会の事務に関する点検・評価を担当する中で、教育委員会の多面的にわたる事業の取り組みをあらためて認識しました。そのうえで、主体者である子どもたちを中心に据えて、教職員、学校、関係機関等が、「鳥羽市教育振興基本計画」を柱として、鳥羽市の将来像を具現化するためにより深く連携する必要性と課題の改善へむけてこの点検・評価報告書の意味を感じました。

■「GIGA スクール」事業での ICT 教育の進展など、価値観の変容、多様化により取り組む事業には、ますますスピード感が必要になってきているこの時代にあっては、教育委員会そのものが、それに応える組織として、課や係の枠をこえた横断的な取り組みができる、柔軟性のある運営、取り組みを期待します。